



アジアにおける“未来の野菜カンパニー”をめざして

株式会社 サラ (笠岡市笠岡5640)

TEL : 0865-63-8031 / URL : <https://www.sarafarm.jp>



経営概要

主な事業と経営規模

【サラファーム笠岡】施設野菜の生産・販売～ミニトマト：6.0ha、パプリカ：3.4ha、レタス：2.5ha
【SARAパワー発電所】木質バイオマス発電：8,000万kWh/年

代表者

代表取締役CEO 小林 健伸

労働力

従業員 227名（2024年12月31日現在 ※パート等を含む）

取組の経緯

◆「晴れの国」と呼ばれ天候に恵まれた岡山県の広大な笠岡干拓地において、最新の施設園芸技術と再生可能エネルギーを活用し、「安心して食べることができる美味しい野菜」を安定的に供給できる持続可能な生産システム構築を目指し、2016年 3 月「株式会社サラ」を設立。



取組内容

最新の施設園芸技術を 活かした野菜づくり

- ◆オランダ「ファン・ダー・フォーベン社」と技術提携し、空調設備を備えた「半閉鎖型グリーンハウス」を設置。最適化された施設内環境によりミニトマト、パプリカ、レタスの周年安定供給（2023年度の総出荷量約2,700トン）とともに、年間を通じた雇用確保を実現。
- ◆生育環境制御システムや収穫後の野菜の自動運搬車両の導入、パッキングのオートメーション化により労働力を大幅に削減。
- ◆環境的・物理的・生物的・化学的な防除技術を組み合わせたIPM（総合的病害虫管理）を導入し、化学合成農薬の使用を最小限に抑えた栽培管理を実施。
- ◆ミニトマト、パプリカについては、受粉にクロマルハナバチを導入。

再生可能エネルギーを生み 出すバイオマス発電でサス ティナブルな施設運営

- ◆再生可能エネルギーである木質由来のバイオマス燃料を用いた発電プラントを敷地内に併設。
- ◆バイオマス発電で発生した電力で施設内の全ての電力を賄い、蒸気は熱交換されハウスや管理棟内の冷暖房に活用。二酸化炭素はグリーン化され、ハウス内野菜に施用し光合成を促進。

環境負荷低減の取組と GAP認証取得

- ◆農林水産省が進める「みどりの食料システム戦略」のもと、環境負荷低減の取組の「見える化」に取り組み、2024年度にミニトマト、2025年度にはパプリカで最上位の星3つを取得。
- ◆2020年 8 月、ASIAGAP認証を取得。菜園で働く人の安全、環境の保全、野菜の安全性に配慮し「持続可能な野菜づくり」を実践するとともに、より高品質で安全な野菜を提供。



今後の展望

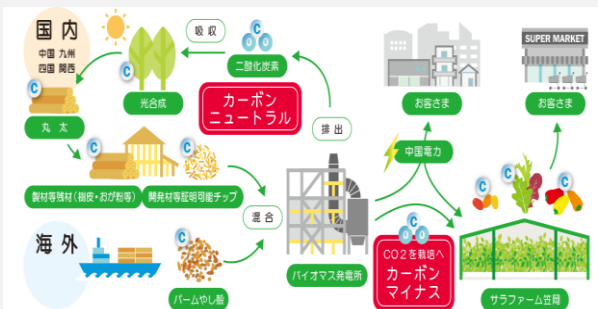
◆さらなる、農業の進化と食の未来を！

さまざまな野菜を365日食卓に届けられるように、これからも最先端の園芸テクノロジーと再生可能エネルギーを活用し、美味しい野菜を周年安定供給していく。また、施設規模の拡大だけでなく、栽培技術を更に進化させ、アジアにおける未来の野菜カンパニーを目指していく。

取材年月日：令和7年7月7日



サラファーム笠岡 全景



サラ事業のコンセプトイメージ



SARA野菜